

事業所名

スマートキッズプラス押上

## 支援プログラム

作成日

2025年

1月

15日

法人(事業所)理念		教育の力により、一人ひとりの可能性を最大限支援することによって、共生社会の実現に貢献します			
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体的に課題に取り組めるよう、子ども自身の力を信じ、思いに寄り添った関わりをもつ。</li> <li>・社会生活に必要な力を育むために、一人ひとりに合わせた課題をスモールステップで設定し、成功体験に繋げる。</li> <li>・地域や関連機関と密接に連携し、子どもとその家族に最適な支援を検討し、提供を行う。</li> </ul>			
営業時間		13時30分から	18時0分まで	送迎実施の有無	あり なし
支援内容					
支援方法		個別課題		集団・小集団課題	
本人支援	健康・生活	季節や気温に合わせて健康を保つための服装の調整の課題 生活スキルとしての清潔の維持や身だしなみ管理の課題 食具、筆記具等生活で使用する物の練習		健康的な生活を送るための基本的な生活習慣・良いルーティンを知る活動 身だしなみや清潔保持に関する知識習得のための活動 清潔への理解と習慣のための清掃活動(ぞうきんの使用、ほうきの掃き方、ロッカーやカバンの中の整理等)	
	運動・感覚	活動時や課題実施時の姿勢保持の課題 視空間認知の発達や目と手の協調性ためのビジョントレーニング課題 指先の機能の向上のための微細運動(例:洗濯ばさみ、プットイン等)の課題		聴覚の感覚や発育、表現のための活動(歌、楽器の演奏等) 模倣や体幹、粗大運動に関わる活動(体操、ダンス、ボール運動等) 指先の操作や巧緻性のための微細運動(製作等)	
	認知・行動	特性における認知の偏りを緩和し、興味・関心の幅を広げる課題 数字の理解や計算の習得に関わる課題 見通しを持つことで安心して過ごせるようスケジュールや構造化への理解の課題		興味・関心の幅を広げるための活動(これってなんだ?、好きな物どれだ?等) 記憶保持に関わる活動(覚えて真似っこ、神経衰弱、山手線ゲーム等) 数字の理解に関わる活動(全部でいくつ?、数字当てゲーム、ビンゴゲーム等)	
	言語・コミュニケーション	文字や文章の読み書きの理解のための課題 文字・記号、絵カード等の適切なコミュニケーション手段を活用するための課題 コミュニケーションスキルの獲得・向上のための(指差し、身振り、サイン等)の課題		人との相互理解のコミュニケーション活動(他児・指導員に関する〇×クイズ等) 口頭での指示理解や説明内容の理解のための活動(スリーヒントクイズ、メモをとってみよう) 文字やイラストを用いたコミュニケーションの活動(かるた、絵しりとり等)	
	人間関係・社会性	社会でのルール理解や他者との関わりに関する課題(SST) 適切な距離感や丁寧な言葉への理解に関する課題 集団への参加や集団での指示理解のための課題		自己理解・他者理解のための活動(自己紹介をしてみよう、気持ちの良い言い方・伝え方、クッション言葉、アサーション等) 集団の中での順番、工程を守るための活動(よく聞いてやってみよう、順番にできるかな) 複数の利用者同士の適切な関わり方の理解のための活動(貸し借り、勝ち負けのあるゲーム等)	
家族支援		家族の就労等の預かりニーズに対応するために、当事業所を利用することで、課題に取り組む、家庭でも同様に対応が出来るように繰り返し支援をしていく。 保護者会を開催することで、同じような課題やお困り感を持つ保護者同士で交流する機会を持ち、実際に適切な対応を共有することで、家庭に持ち帰って実施できる連続した支援を行う。		移行支援	当事業所で作成の個別支援計画を他機関と共有し、課題として取り組んでいることを日常で実践できるように支えり組むことで、利用者に対する支援の統一を図る。 学校、その他機関と日常的に連携を行い、行事等の普段と異なる活動の際の利用者への関わりについて、具体的な関わり方のモデルを示す。
地域支援・地域連携		他事業所での支援の様子を確認し、目標のレベル感の調整と統一を行うことで、日常生活に活かしていく。 各種関係機関で役割分担を行うと共に、それぞれの機関で得られた情報を共有することで、日常生活や支援に活用するための具体策を提案する。		職員の質の向上	経験年数別の階層別療育研修・組織人研修、虐待防止研修、感染症対策防止研修等の実施。 心理士等専門家を交えたミーティング、事例検討の定期実施。
主な行事等		避難訓練(火事、地震、水害、防犯等)、課外活動(お買い物、公園に行こう)、調理活動(クレープ作り、ラッシー作り)、保護者会、その他			